

文理融合・異分野融合/連携など様々に表現される学際研究ですが、近年、人文学・社会科学の視点を盛り込むことが重要視されています。しかし現状では、理系（自然科学）主導のプロジェクト内のごく一部に人社系研究者が関与する形が主流と言わざるを得ません。アカデミアに対して研究成果の社会還元が期待される今、人文学・社会科学がアカデミア全体の中で果たす役割はさらに増大すると考えられます。

そこで今回のフォーラムでは、昨今の動向と問題意識を共有し、様々なタイプの異分野融合/連携の事例を参考に意見交換を行い、さらなる人社主導のプロジェクト創出について議論を深めたいと思います。

講演者プロフィール



近藤 康久 (こんどう やすひさ)

総合地球環境学研究所・准教授。専門は考古学、地理情報学、オープンサイエンス論。現在、同研究所のコアプロジェクト「環境社会課題のオープンチームサイエンスにおける情報非対称性の軽減」のリーダーを務める。



城山 英明 (しろやま ひであき)

東京大学 大学院法学政治学研究科・教授。現在、文部科学省 科学技術・学術審議会学術分科会 人文学・社会科学特別委員会の主査として、人社系研究を軸とした公募型プロジェクト事業の設立に取り組む。専門は、行政学、国際行政論、科学技術と公共政策。



南 了太 (みなみ りょうた)

京都精華大学 人文学部・准教授 (兼 京都大学 産官学連携本部 研究員)。専門は産官学連携・社会学。これまで、同志社大学や京都大学で人社系産官学連携の推進や組織対組織の産官学連携、大学間連携に従事し、本講演では人社系産官学連携の様々な事例を紹介する。



高橋 そよ (たかはし そよ)

琉球大学 人文社会学部 琉球アジア文化学科・准教授。博士 (人間・環境学)。専門は生態人類学、環境民俗学。京都大学大学院 人間・環境学研究科 修士課程修了後、米国・東西センターの客員研究員、国際NGOのプログラムオフィサー、琉球大学のURAなどを経て、現職。



田口 茂 (たぐち しげる)

北海道大学 大学院文学研究院・教授。人間知・脳・AI研究教育センターの初代センター長として、人文社会科学・神経科学・人工知能の知が深く交差する文理融合型の学際的研究・教育に取り組む。研究分野は、西洋近現代哲学 (特に現象学)、意識の学際的研究、近代日本哲学。



堂目 卓生 (どうめ たくお)

大阪大学 総長補佐、経済学研究科・教授。専門は、経済学史、経済思想。アダム・スミスの研究で、サントリー学芸賞を受賞。紫綬褒章受章 (2019)。2018年より、社会ソリューションイニシアティブ (SSI) 長として、社会課題に向き合い、未来社会を構想する取組を進めている。



山内 太郎 (やまうち たろう)

北海道大学 大学院保健科学研究院・教授。現在クロスアポイントメント制度で、総合地球環境学研究所・教授として、「サンテーション価値連鎖の提案-地域のヒトによりそうサンテーションのデザイン」のプロジェクトリーダーを務める。専門は、人類生態学、国際保健学。



鈴木 一人 (すずき かずと)

北海道大学 公共政策学連携研究部・教授。国際政治・国際関係論と科学技術を専門とし、大量破壊兵器不拡散、輸出管理、宇宙政策、科学技術と安全保障など、研究と実務の両方にかかわっている。内閣府 宇宙政策委員会 宇宙安全保障部会メンバー。日本安全保障貿易学会会長。

人文・社会科学系研究推進フォーラムとは

人社系の研究にかかわる研究者やURA、事務系職員等が、よりよい研究推進のあり方をともに議論し、ともに行動することを目指して、2014年に発足しました。フォーラムの企画・運営は、開催校を中心に、各大学の人社系担当URAの有志グループによって行われています。第6回目となる今回は、北海道大学にて開催いたします。

お問い合わせ

北海道大学 大学力強化推進本部 研究推進ハブ URAステーション (担当: 中野・能勢)
Tel: 011-706-9581 / E-mail: jinshaforum_hokudai@oeic.hokudai.ac.jp
<https://u4u.oeic.hokudai.ac.jp/4785/>



私たちはメディア・ユニバーサルデザインに取り組んでいます